

国立大学法人兵庫教育大学

学 報



第262号

平成16年 5月

題字 中洲正堯学長



大学院学校教育研究科入学式



目 次

大学院連合学校教育学研究科入学式式辞.....2	・教育研究評議会
大学院学校教育研究科入学式式辞.....3	・教授会
学校教育学部入学式式辞.....6	・大学大学院学校教育研究科委員会
学 事.....8	・大学院連合学校教育学研究科委員会
・平成16年度学部及び大学院の入学者数等	・新任職員オリエンテーションの実施
・附属学校の幼児，児童及び生徒の現在数等	・第1回附属図書館利用説明会の開催
・奨学寄附金	・学部新入学生合宿研修の実施
人 事.....9	・留学生がさくらまつりに参加
・人事異動	・留学生がフレンドシップファミリー対面の会
諸 報.....9	に参加
・役員会	・訂 正
・経営協議会	主要日誌.....12

大学院連合学校教育学研究科平成16年度入学式式辞

学長 中 冽 正 堯

「ひく波の跡美しや桜貝（松本たかし）」、こんな日本人らしい感覚の俳句に親しめる春の佳き日に、地元社町長、加東郡教育委員会教育長、兵庫教育大学名誉教授をはじめとする来賓各位のご臨席と、上越教育大学副学長、岡山大学長、鳴門教育大学長、連合学校教育学研究科長をはじめとする関係教職員各位のご列席のもとに、兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科平成16年度入学式を挙行し、ここに24人のみなさんをお迎えできますことは、本研究科にとって誠に大きな慶びとするところであります。

みなさんが学の攻究をさらに深める強い意志と情熱を持って、この度めでたく入学されましたことは、もとよりみなさんのこれまでの日々の研鑽の賜物であります。と同時に、みなさんがひたすら研究に打ち込むことに対する、周囲の方々の深い理解によるところが大きいと思います。このときにあたり、それら周囲の方々に改めてみなさんとともに感謝したいと思います。

本連合研究科は、平成8年4月に設置され、みなさんは9期生ということになります。本連合研究科は、学校教育を中心とした教育活動や、教科の教育に関する実践的な体系的研究を行い、実践を踏まえた高度な研究指導能力を持った人材を育成することを目的とする博士課程であり、二つの専攻はいずれも実践学であります。

みなさんには、大きく二つの仕事が課せられることとなります。一つは、学校教育学の構築に参画し、博士論文としてその成果を世に問うことです。もう一つは、実践を踏まえた高度な研究指導能力を持った人になることです。後者は、研究後継者になることや教育専門職に従事することによって具現化されます。

今日からのみなさんが研究の深化と拡充に向かって進んでいかれる、その意欲の高揚のために一つ的话题を提供してみたいと思います。それは、この兵庫県が生んだ民俗学者柳田国男の「新色音論」というものです。

柳田国男は『明治大正史世相篇』（講談社学術文庫、1976）という書物を著しています。この書は、柳田が「約一年の間、全国各府県の新聞に眼を通して、莫大の切り抜きを造っただけでなくさらに参考

として過去60年の、各地各時期の新聞をも渉猟し」た結果を基にして、15章にわたる項目を設定し、庶民の歴史として書き下ろしたものです。

その第1章の「眼に映ずる世相」のトップが「新色音論」です。

柳田は、「この世相の渦巻きの全き姿を知る」ことの必要を思い、そのためには、「全体に物遠い法則を仮定してかかり、もしくは込み入った調査を計画するものは、大衆にも向かず、またいつも次から次への変化には間に合わぬような憾みがある。」と言っています。これは、学校教育学、教育実践学にとっても、今日、刺激的な発言です。

したがって、柳田は、「いま少しく平明な、だれでも入って行かれる実験法があつて、だんだんに歴史を毎朝の鏡のごとく、われわれの生活に親しいものとするのできるのではないか。」というのです。ここに、方法論的模索があります。実験、統計的手法をとるか、先行の理論、研究による相関的手法をとるか、観察、実証による記述的手法をとるかなどです。あるいは、これらの併用、ミックスも考えられます。

柳田は、常民の歴史記述の方法として、江戸時代の文人が、奥州の田舎者の江戸見物に托して、吾妻廻りと題する小さな一冊の観察記を書いている、それを参考にしようとした。

「もちろん、三百年前の人の心持ちは、いま思うとおかしいほどに悠長であった。当時関東において流行るものは何々、庭木には椿の花、飼い鳥には鶉、上下貴賤となくどちらに往ってもこれを珍重する。鶉の風雅なる声音と椿の花の艶色と、いずれを優れりとせんかということを経々と説いて、それでその



書的一名を色音論ともいっているのである。」

柳田は、この色音論は気楽であったと評しつつ、「眼に見耳に聞いたものを重んじた態度だけはよい」として、改めてこの手法を組織的に試みようとしたのです。結果として、15章の仕立てになりました。まず、「眼に映ずる世相」です。以下は、「食物の個人自由」「家と住心地」「風光推移」「故郷異郷」「新交通と文化輸送車」「酒」「恋愛の消長」「家永続の願い」「生産と商業」「労力の配賦」「貧と病」「伴を慕う心」「群を抜く力」「生活改善の目標」となっています。どの題目も、今なお新鮮であり、当時（昭和5年）としては相当斬新なものだったにちがいません。

柳田は、この試みが必ずしも成功したとは言えないと自評しており、これを批判的に継承・発展させようとする試みもすでになされています。たとえば、色川大吉の『昭和史世相篇』（小学館ライブラリー、1994）があります。

柳田の取り上げた内容と採用した方法とは、依然として有効であると私は思います。その証左の一つとして、ニホン・ミックという出版社が刊行している『コラム歳時記』をあげることができます。『コラム歳時記』は、現代の地方新聞48紙のコラム記事を選別、編集し、生資料（写真版）として購読者に月ごとに雑誌形式で提供しているものです。新聞に携わる地域文化人たちが、ある時代、ある時期に、何を話題にし、どういう角度から問題にしているかを捉える有力な資料になることは確かです。

もちろん肝心なことは、収集した資料をもとに、

何を考究し、新しい発見をなすかであります。柳田は、第1章の「眼に映ずる世相」の中の第4として、「朝顔の予言」というのを立てています。「中でもことに日本の色彩文化の上に、大きな影響を与えたのは牽牛花であった。他の多くの園の花は鮮麗だというだけで、たいていは単色でありその種類もわずかであったに反して、この蔓草ばかりはほとんどあらゆる色を出した。時としては全く作る人が予測もしなかった花が咲き、そうでないまでもわれわれの空想を、極度に自在に実現させてくれたのである。」と述べています。端的にいえば、日本人が胸の奥底に秘めていた色に対する理解と感覚を、江戸から明治にかけての朝顔の栽培が目覚めさせたという考察です。言ってみれば、大胆な仮説のおもしろさです。

以上が、みなさんの意欲を高揚する一つの話提供です。

博士課程の大学院は、一人の研究者が、志を同じくする世界の多くの研究者と知的交流をし、時代を越え、国を越え、文化を結んで、共に真理に近づく喜び、新しいものを創り出す感激を分かち合える場であります。

これからの教育系大学・学部の、研究・教育の活力の源泉はみなさんにあること、そして、望ましい教育現場の創造はみなさんによってなされることを確信し、精進を期待するものであります。健康に留意しつつ、大いなる成果をあげられますよう祈念して式辞といたします。

平成16年 4月13日

大学院学校教育研究科平成16年度入学式式辞

学長 中 洌 正 堯

「蝌蚪乱れ一大交響楽おこる（野見山朱鳥）」、ここ社では、オタマジャクシのそんな風景を、見ようとおもえばいつでも見ることができます。まさに春のこの佳き日に、社町長、本学名誉教授をはじめとするご来賓各位、本学役職員をはじめとする教職員各位のご列席のもとに、兵庫教育大学大学院学校教育研究科平成16年度入学式を挙行し、330人のみなさんをお迎えできますことは本学にとって大きな慶びとするところであります。

みなさんが希望する研究・教育の道に進むことができますのは、もちろんみなさんがこれまでに培っ

てきた学力と弛まぬ努力、そして何よりも研究・教育に対する強い関心と意欲によるものであります。

とともに、みなさんの大学院への入学あるいは進学は、ご家族の方々をはじめ各地の教育委員会、所属長、在籍校のみなさま、また、みなさんの周囲の方々のご理解、ご支援によるものであることに改めて心せねばならないと思います。

本学は「教員の資質向上」という国家的、社会的な要請にこたえて、主として現職教員に関する研鑽の機会を確保する目的で、昭和53（1978）年に創設されました。25年を経て、今年度から国立大学法人の

設置する兵庫教育大学として再出発いたします。みなさんの大学院としての研究・教育の生活は、これまでと特に変わるものではありません。が、大学運営のシステムは変わります。本学はこれまで以上に実践的な教育研究を指向し、発展するために、さまざまな企画を推進していかなくてはなりません。そのことが社会的にも強く求められています。

現在の日本の教育状況を頭に置きつつ、先人の事例を取り上げて、大学院入学に際しての心構え、気構えづくりにも供したいと思えます。みなさんは、これまでに峰地光重の名をお聞きになったことがあるでしょうか。28歳で鳥取県の小学校の校長になり、36歳の時に、生活教育・郷土教育の研究・実践校として全国に学校名をとどろかせ、著作集全18巻を持つという人です。

ところで、峰地光重は、戦後の1952(昭和27)年4月から1956(昭和31)年3月まで、岐阜県多治見市池田小学校甘原分校に勤めています。還暦を過ぎてからのことです。そのときの子どもたちとの教育実践が『はらっぱ教室』(百合出版, 1955)としてまとめられています。参考までに、無着成恭の『山びこ学校』が刊行されて話題を呼んだのは、1951(昭和26)年のことです。

『はらっぱ教室』は、児童作品を中心とした8部構成とあとがきふうの「作文とその周辺」という文章から成っています。8部の構成は、第1部 野の子らのこえ、第2部 花のシンをのぞく、第3部 かたちと色と、音とにおいとあじ、第4部 石ころをひろう、第5部 足もとの虫けらをしらべる、第6部 野の鳥・山の動物、第7部 でてくる童話とシナリオ、第8部 社会科をあるく、となっています。

この構成からも分かりますように、自然科学的実践のアプローチが中心です。第7部が童話とかシナリオなど文学的アプローチ、第8部が社会科ということで、これは、社会科学的手法です。『山びこ学校』が全面、中学生の手になる社会科学的研究の貴重なモデルと評されたことは好対照をなしています。

『はらっぱ教室』にはどんなことが記されているか、冒頭でオタマジャクシの俳句を出しましたので、その筋をおさえてみます。第3部の「かたちと色と、音とにおいとあじ」から、2年生の松田かなえさんの書いた「あかがえる」を引用してみます。

「わたしと、おばあさんと、まどのそばにおったら、おやあ、おやあと、かえるの音がしました。わたしはながくつをはいて、とんでました。そして

たんぼの中に、はいていきました。そこにかえるのたまごが、ありましたが、かえるはいません。あちらこちらさがしていると、赤いかえるがいました。かえるは、どろんどろんのたまごを、うんでいました。わたしははしって、バケツをとりにいきました。／たんぼにひきかえしてみたら、かえるは、たまごだけのこして、どこかへいってしまっていました。そこでわたしは上のたんぼへ、いきました。／かえるがないていました。くるくるとないていました。また、くくくともなきました。かえるをみつけて、バケツの中においこみました。そして足をとらめて入れました。五ひきとらめて、うちへもって行って、水を入れて、バケツの上に、おもたいおけをおきました。／先生のうちへいって、なんという名か、先生にきいたら／「にほんあかがえる」と、いいなさいました。かえるは、バケツの中で、け、け、といいました。／2月11日」 峰地は、[かいせつ]で、「2月11日」の確かさと、にほんあかがえるの鳴き声の捉えどころのなさ(それを、かなえさんが見事に表現したこと)を述べています。

私は、松田かなえさんが、かえるを追跡する行動に、峰地と子どもたちとの学びの約束のようなものが成り立っていることに注目します。それは、かえるを捕らえて、峰地のところへ確かめに行くことにも現れています。

もう一つ、第7部の「でてくる童話とシナリオ」から、短いものを引いてみます。

「雪が ふって いました。青い竹が、まがってしまいました。／そこへ たぬきの 子どもが、やってきました。／「竹さん、少しどいてください。」と、いいました。／「雪が、もたれかかっているでうごけない。」と、竹がいいました。／たぬきの子どもが、こまってしまっていると、その時、たぬきのおとうさんが、来て、竹のはだをゆすりました。雪が、ばさりとおちて、竹が少し、上にのびました。／たぬきの子どもが、よろこんで、みちをとおっていきました。／また、ひどく、雪が、ふってきました。」(4年 日比野 みち子)

これは、「お話の会」というのがあって、「身のまわりにあったこと、見たこと、きいたことなど、そのほか本でよんだ話など、いろいろなことをみんながお話をしあう」「それだけでなく、折につけ、機会あるにつけ、その時、その場に、ふさわしい話を、べつに目的もなく、まとまりもなく、気ままにしゃべります。そのとくちょうは、話題がみんなに関係のあること、話のなかにみんなの中のだれかが登場人物として、でて

くることでしょう。」としています。そして、これは、「第1部から第6部までのような種類の話があって、はじめてでき」ることとしています。これもまた、今日的にも示唆深いことです。

いかがでしたか。峰地光重と子どもたちの実践に、日本の教育の原点のようなものを見るもよし、批判的に越えるもよし、心構えを毅然として、これからの大学院生活の日々を充実したものにしていけることを切に期待して式辞といたします。

サテライトでは、67人の入学者を迎えて、お祝いと喜びを述べた。

式辞では、『はらっぱ教室』から、「あかがえる」「雪」の代わりに「ゆびものさし」「かけす」を紹介することにした。以下にその部分のみを掲げる。

ゆびものさし

せんせいに、つめを きってもらったとき、ものさしで、中ゆびのつめのながさを、はかしてもらったら、ちょっぴり1センチありました。

それから、ある日のこと、せんせいに、メートルのことを、ならいました。せんせいは、こくばんに、1メートルのながさをはかって、しるしをつけて くださいました。それに、わたしの手を、あわせてみたら、みぎの中ゆびの さきから、ひだりの手くびまでが、1メートルでした。それでひだりの手くびに、インキで 赤いせんを つけてもらいました。それから、10センチのながさは、中ゆびのさきから、手のひらの中ほどでした。それで、そこにも、赤いせんを ひいてもらいました。

そうして、わたしの手に、1センチと、10センチと、1メートルのしるしが、つきました。

7月5日のばんかた、わたしは、はたけで、きうりのながさを、はかってみました。15センチと、13センチのが 1つずつありました。(たて書きのため数字のみ表記改め)(1年 山田美代子)

峰地は、[かいせつ]で、「わたしが、ここ つづ原の先生になったのは、子どもたちの爪切りから、はじまったようなものでした。/『ゆかりさんのお家はどっち?』/『お兄さんは、ある?』/『あの山はなんという?』/爪を切りながら、わたしははじめての土地のいろいろなことを、子どもたちに教えてもらい、子どもの仲間に入れてもらえたのでした。」と述べています。

また、この「ゆびものさし」について、「からだ が、ものさしになっていますから、どこへ行っても、

何でもはかれます。そしてしるしが消えても、だいたいの長さは、おぼえていて、はかれるようになったのでした。」と捉えています。

もう一つ「かけす」という文章を紹介しておきます。

か け す

ぼくが、うんどう場で、どっちを やっていると、育也君が、鳥のはく製をもって来た。ぼくが、「それ、なんという鳥や。」と、いうと、「知らん。」と、いって、学校の中に、はいていった。そのあとから、峰地先生がきなさったので、ぼくが、「先生、あの鳥、なんちうやつやな。」

と、いったら先生は、「かけす」といいなされた。

それをぼくは、ききまちがえて、

「けす、けす。」と、いいながら、うんどう場を、はしりまわっていました。理科の時間になったので、教室の中に、はいていった。すると、先生のテーブルの上に、けさ見たはく製の鳥がおいてあった。

ぼくはこの時も「けすのはく製だ。」と、おもっていました。おじぎが、すんでから、先生は、にこにこしながら、

「けさは、おもしろいことがあったよ。」と、おっしゃいました。

何がおもしろかったのだろうと思っていると、

「けさ、はく製を育也君に、もって来てもらったら、洋君が『先生、あの鳥、なんちうやつやな』といったもんだから、『かけす』と、おしえたら、洋君は、ききまちがえて、『けす、けす』と、いいながらよろこんで、走りまわっていましたよ。」と、先生が、おっしゃいました。すると、みんなが「はっは、はっは」と、わらいました。

ぼくは はづかしくて、かおが赤くなりました。このはく製の鳥は、鳩よりは、やや小がたの鳥です。つばさのつけ根のかざり羽は、黒と白と青色のしまもようになっているととてもうつくしい。

先生は、はく製のとき、とりなされたペロを ポケットの中から、とりだして見せてくださいましたが、ペロはペンさきのようにとがって、二つにわれていました。先生は、そのペロに、赤インキをつけて、(かけすの舌)

と、紙にかきなさいました。ペンでかいたように、きれいにかけたので、ぼくは、ちょっとびっくりしました。

かけすは、山では、いつも ギャア ギャアと、なっているようですが、かいならすと、人のまねを、するようになるそうです。

「この鳥は、ラッパの音もだす。こんにちは もや

る。コケッコも、いいですよ。」と、先生は、おっしゃいました。ぼくは、またびっくりして、きいていました。(4年 山田 洋)

これについての峰地の[かいせつ]にも傾聴すべきことが多々ありますが、割愛します。山田くんのこの学習記録の内容は、たとえば『カラー図説日本大歳時記』(講談社、1983)の「解説」で確かめてみても、遜色のないことがわかります。

カラス科で鳩よりやや小さい。体色は葡萄色が主であるが、翼は黒に白と藍の縞が横に見えて美しい。目のまわりが白く、嘴が鋭く、榎の実を好むので榎鳥の名があり、虫も食う。留鳥で低山帯で繁殖する。自分の声はギャーギャー、またはジャージャーとカラス科特有の悪声であるが、他の鳥の鳴声を真似するのがうまく、人

の言葉や水車の音まで真似るといわれる。秋には平野の人里近くるので割によく見かける。樹木に枯れ枝などで造る巢の形から懸巢の名がある。[森 澄雄]

このことから、もう一度「かけす」の文章を振り返ってみて、峰地と子どもたちの間に自ずから成立していた学びの約束のようなもの、その中で育った学習生活を記録する力を感じとることができます。今は便利な時代になり、コピーもインターネットも可能で、記録も取りやすくなっています。それなのに、逆に、書かなくなり、書けなくなっていないでしょうか。

平成16年 4月 6日

学校教育学部平成16年度入学式式辞

学長 中 洌 正 堯

「方丈の大庇より春の蝶(高野素十)」, そういう情景が身近な今日の佳き日に、社町長、本学名誉教授、後援会会長をはじめとするご来賓各位、本学役職員をはじめとする教職員各位、そして、ご家族の皆様のご臨席のもとに、兵庫教育大学、学校教育学部平成16年度入学式を挙行し、はつらつとした178人のみなさんをお迎えできますことは、本学にとって誠に大きな喜びであります。

みなさんが本学に入学するまでには、みなさん一人一人の強い意志とたゆまぬ努力があったことと思いますが、今日までみなさんを支えてこられたご家族のみなさま、各学校の先生方、また、友人の方たちに、ここで、みなさんとともに心からお礼を申し上げたいと思います。

ご承知のように、国立大学は、この四月から法人格の大学になりました。大学の運営のしくみはいろいろ変わりますが、学生のみなさんにとっては、学生生活上先輩たちのおこなってきたことと特に変わるものではないことを、まず、申し上げておきます。

みなさんは、今日から始まる学生生活をどのように送るか、あれこれと考えていることと思います。これから、私が過去に出会った一人の小学生の話をしますから、大学生になったみなさんは、この君に負けないくらいの、大学生としての何事かをなしてあげていただきたいと思います。

その小学生の〇くんは、ここの中国自動車道を西に走って、岡山県の津山に近いところに生活していた児童です。冒頭の俳句に「蝶」のことがありましたが、「アゲハチョウ」の自由研究をした、当時6年生の児童でした。研究のねらいは、ナガサキアゲハの北限を明らかにするというものです。ナガサキアゲハというのは、雄は見た目には黒っぽく、雌は後翅(あとばね)に白っぽい大きな斑点のあるアゲハ蝶で、普通は尻尾がなく、その名前から推測されるように、九州をはじめ南方系の蝶です。南方系ですから、北の生息地はどこまでかとなります。これが北限です。

〇くんの研究動機は、ナガサキアゲハが手持ちの図鑑では「瀬戸内海沿岸まで」となっているのに、自分の住んでいる岡山県の中北部でも毎年飼育でき



るといふ事実からです。後に、〇くんからもらったレポートの「研究動機」にそう書いてあります。

「研究方法」としては、投書、手紙、電話、文献、コピー、写真、標本等の活用があげてあります。今ですと、インターネットも使えるところです。

レポートの本文は、「研究1」が、ナガサキアゲハの北限を調べることと一応の結論、「研究2」が、ナガサキアゲハの分布拡大の様子を調べることと一応の結論、「研究3」が、なぜナガサキアゲハは北上するかを追究することと一応の結論で、レポートのくりは、「総まとめ」「研究を終わって」となっています。

〇くんのとった研究方法に、新聞への投書というのがあります。それが、「こんなアゲハ見たら教えて」という見出しで、朝日新聞(1985・7・3)の「声」の欄に図入りで掲載されたのです。昭和60年の夏のことです。「その日から電話がかかり、次の日から夏休みの間中、びっくりするほど沢山の人から手紙が届き、その中には、文献のコピーや、写真や地図や標本まで入っていました。/*最終的に、手紙53通、電話12通届きました。」と記しています。こうした記録もたいしたものです。

私は、この兵庫教育大学のキャンパスで、翌年の1986年の秋、ナガサキアゲハの雌を目撃しています。証人もいます。〇くんの新聞投書から1年以上です。そのことをごていねいにも、私は、1987年の1月に〇くんに知らせたのです。〇くんは、もう中1を終えようとしている時期でした。

紹介しましたように、レポートの本文は、ナガサキアゲハのその時点での歴史的、地理的分布状況と、北上の原因究明(一つは気温の変化の調査、もう一つは食草であるミカン類の植物栽培の変化の調査)とで構成されており、小学生の追究としてはレベルの高いものといえます。

さらに後日、〇くんから『久米の子ら』という岡山県の地域文集をもらうのですが、その中に、中学2年生となった〇くんの文章が掲載されています。「ナガサキアゲハにまつわる人々」と題するその長文の文章の結びは、こうです。「まだまだ多くの人達一人一人の文面が僕の胸に刻まれている。あれっきり文通も何もしていない人達に今でもお礼を言いたい気持ちだ。父は『仁士らあ二十一世紀に生きるんじゃけん、視野を広く持たにゃあ。』と言う。投稿によって新聞の持つ威力と反響のすごさを思い知ったが、この貴重な体験のお陰で家族とか近所の人、先生や友達以外の世間の大きさとひと様の暖か

い心を知ったように思う。」この終わりの感想はほんとうに重要です。

私が過去に出会った一人の小学生の話は以上です。みなさんは、大学生として、この4年間に、この〇くんのような、しかも大学レベルの何事かをなしとげてみませんか。

式辞の結びに、本学の学歌のことに触れておきます。

歌詞の一番に、「並みよるふ山」というのがあります。これは山が連なっているということです。キャンパスからは、北西に中国山地、南東に六甲の山並みを遠く望むことができます。ここは、嬉野台と言います。その嬉野台に学舎の基礎を定め、まことの道を究めんと、つまり真理の探究のために、みんなが今ここにつどえる、集まってきている、というその自覚を歌っています。

歌詞の二番に出てくる「真秀ら」ということは、「すぐれたよい所」という意味になります。そういう場所である丘に、昼も夜も志の灯火をかがけ、教えの道を求めんと、つまり教育の求道のために、みんなが今ここにつどえる、集まってきているということです。二番の歌詞は、その意思を歌っています。

ここ播磨の地は、日本列島の東西南北の中間点に位置しています。この地理的、空間的な日本の原点の位置にあって、歴史的、時間的な観点を加え、みなさんは、今日から自分の心身(こころとからだ)の位置を確かめ、真理の探究と教育の求道のために、どのように座標を移動させていくか、自らをどのような象限へと成長させていくのかを考え、行動を始めなくてはなりません。

低きに流れることなく、志を高くもち、感性を生き生きとはたらかせて、兵庫教育大学における毎日が、みなさんの一生にとって、かけがえのない時となるように祈ります。

平成16年 4月 6日

- 学 事 -

平成16年度学部及び大学院の入学者数等
学校教育学部初等教育教員養成課程

(人)

区 分	入学定員	合格者数	入学者数
学校教育専修	160	179	72(1)
教科・領域教育専修			106(2)
合 計	160	179	178(3)

大学院学校教育研究科(修士課程)

(人)

区 分	入学定員	合格者数	入学者数
	125	156	136
学校教育専攻	15	7	5
教育基礎コース	10	12	11
教育経営コース	20	20	18
教育方法コース	10	14	13
生徒指導コース	10	21	18
幼年教育コース		8	6
昼間クラス		13	12
夜間クラス	20	29	25
学校心理コース	10	18	15
昼間クラス	10	11	10
夜間クラス	40	53	46
教育臨床心理コース	25	36	30
昼間クラス	15	17	16
夜間クラス			
障害児教育専攻	25	34	27
教科・領域教育専攻	150	185	167
言語系コース	30	42	38
昼間クラス		33	29
夜間クラス		9	9
社会系コース	25	37	33
昼間クラス		33	29
夜間クラス		4	4
自然系コース	20	19	15
昼間クラス		19	15
夜間クラス		0	0
芸術系コース	25	23	21
生活・健康系コース	20	27	26
昼間クラス		20	19
夜間クラス		7	7
総合学習系コース	30	37	34
昼間クラス	20	28	25
夜間クラス	10	9	9
合 計	300	375	330

大学院学連合学校教育学研究科(博士課程)

(人)

区 分	入学定員	合格者数	入学者数
学校教育実践学専攻 学校教育方法 学校教育臨床	8	7	6
教科教育実践学専攻 言語系教育 社会系教育 自然系教育 芸術系教育 生活・健康系教育	16	20	18
合 計	24	27	24

附属学校の幼児、児童及び生徒の現在数等

(人)

附属幼稚園	3歳児	24
	4歳児	48
	5歳児	66
	計	138
附属小学校	第1学年	86
	第2学年	84
	第3学年	85
	第4学年	80
	第5学年	85
	第6学年	80
	計	500
附属中学校	第1学年	106
	第2学年	97
	第3学年	108
	計	311

奨学寄附金

寄附申込者	研究担当者	寄附の目的	金額(千円)
(財)福武学術文化振興財団	総合学習系教育講座教授 成瀬敏郎	成瀬敏郎教授の「中国地方に分布する古土壌母材への風成塵の影響に関する研究」に対する研究助成	700
(財)飯島記念食品科学振興財団	生活・健康系教育講座助手 前田智子	前田智子助手の「発芽玄米の成分特性と製パン及び各種加工食品への利用についての研究」に対する研究助成	1,600
(財)田嶋記念大学図書館振興財団		附属図書館の書架等管理設備品の整備に対する助成	1,700

- 人 事 -

人事異動

(附属学校)

年月日	発令事項	新職名等	氏名	旧職名等
16. 4. 5	採用	附属小学校教諭	山谷 浩 史	
16. 4. 7	"	"	中 地 吉 人	
16. 4. 7	"	"	足 立 奈 緒 子	

(事務局)

年月日	発令事項	新職名等	氏名	旧職名等
16. 4. 5	採用	総務部庶務課研究協力係 事務補佐員(自然,生活・健康棟)	藤 井 志 帆	

- 諸 報 -

国立大学法人兵庫教育大学役員会

第1回 平成16年4月1日(木)

(議 題)

- 1 役員会規則等の制定について
- 2 経営協議会規則等の制定について

第2回 平成16年4月1日(木)

(議 題)

学則等諸の制定について

第3回 平成16年4月7日(水)

(議 題)

- 1 中期目標についての意見(中期目標原案)の提出について
- 2 中期計画案の認可申請について

3 年度計画の届出について

4 業務方法書案の認可申請について

5 平成16年度収入・支出予算について

6 連合学校教育学研究科の設置及び運営に関する構成国立大学法人間協定書等の締結について

国立大学法人兵庫教育大学経営協議会

第1回 平成16年4月7日(水)

(議 題)

- 1 経営協議会規則等の制定について
- 2 副議長の指名について
- 3 中期目標についての意見(中期目標原案)の提出について
- 4 中期計画案の認可申請について
- 5 年度計画の届出について

- 6 業務方法書案の認可申請について
- 7 学則等の制定について
- 8 平成16年度収入・支出予算について
- 9 連合学校教育学研究科の設置及び運営に関する構成国立大学法人間協定書等の締結について
- 10 学長選考会議委員の選出について

第4回 平成16年4月21日(水)

(議題)

- 1 財団法人 大学基準協会への加盟について
- 2 役員会, 経営協議会, 教育研究評議会, 教授会及び研究科委員会の審議事項について

国立大学法人兵庫教育大学教育研究評議会

第1回 平成16年4月1日(木)

(議題)

教育研究評議会規則等の制定について

第2回 平成16年4月1日(木)

(議題)

- 1 学則等の制定について
- 2 経営協議会の学外委員について
- 3 学長選考会議委員の選出について

第3回 平成16年4月5日(月)

(議題)

- 1 中期目標についての意見(中期目標原案)の提出について
- 2 中期計画案の認可申請について
- 3 年度計画の届出について
- 4 連合学校教育学研究科の設置及び運営に関する構成国立大学法人間協定書等の締結について
- 5 教員選考手続きについて

兵庫教育大学教授会

第1回 平成16年4月5日(月)

(議題)

- 1 教員選考委員会委員の交替について
- 2 教員選考手続きについて
- 3 平成16年度学校教育学部授業科目担当教員の変更等について
- 4 平成16年度学校教育学部入学者の専修所属について
- 5 2年次進級時における学生の専修等の所属変更について
- 6 放送大学との単位互換協定に基づく修得単位に係る単位認定について

- 7 学部学生の学籍異動について

兵庫教育大学大学院学校教育研究科委員会

第1回 平成16年4月5日(月)

(議題)

- 1 長期履修学生(夜間クラス)の許可について
- 2 大学院学校教育研究科担当判定委員会の設置について
- 3 大学院学校教育研究科担当の認定について
- 4 平成16年度大学院学校教育研究科授業科目担当教員の変更等について
- 5 大学院学生の学籍異動について
- 6 協定に基づく特別聴講学生の単位認定について
- 7 研究生の学籍異動について

兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科委員会

第1回 平成16年4月13日(火)

(議題)

- 1 平成16年度入学者の決定について
- 2 主指導教員, 副指導教員の決定について
- 3 代議委員会委員の選定について
- 4 平成16年度授業科目担当教員の変更について
- 5 研究科学生の学籍異動について
- 6 平成16年度予算配分について

平成16年度兵庫教育大学新任職員オリエンテーションの実施

本学の新任職員を対象とするオリエンテーションが, 4月2日(金)に大会議室において, 36人の新任職員が参加して実施された。

オリエンテーションでは, 新構想大学である本学の沿革・理念, 現状等の説明と国立大学法人兵庫教育大学の管理運営・就業規則等についての講義が行われ, 新任職員は認識を深め, 本学職員としての使命と心構えを自覚する研修となった。

平成16年度第1回附属図書館利用説明会の開催

附属図書館利用説明会の第1回目として, 4月12日(月)~16日(金)の5日間, 「図書館ツアー」と称して新入生を対象に図書館内を案内した。学位論文コーナーをはじめ特殊資料室, 教科書コーナーなど, 館内を一巡しながら資料の配架場所や利用方法を説明した。期間中91人の参加があり, 好評のうちに終了した。

学部新入学生合宿研修の実施

平成16年度学部新入学生合宿研修を4月15日(木)、16日(金)に実施した。

この合宿研修は、入学して間もないこの時期に集団生活を通して、同級生やクラス担当教員との交流を深めるとともに、修学及び学生生活上の指導を目的として毎年開催しているものである。

研修は、本学講堂で学長講話、保健管理センター長による講演の他、将来の進路・就職に対しての心構えを明確にし、充実した学生生活を送ることができるよう、本学で就職相談員をして頂いている城谷、前田両先生による講演、本学卒業生で各種社会教育事業の講師等としてご活躍されている、太田詳次郎氏による講演の後、場所を国立淡路青年の家に移し、クラス担当教員とのレクリエーション、鳥崎教授による班別演習等を行った。

帰学後、クラス代表者会議主催の新入学生歓迎会が学生会館食堂で行われ、有意義な2日間を締めくくった。



留学生がさくらまつりに参加

4月18日(日)、やしろ国際交流協会によるやしろ鴨川さくらまつりの見学会が開催され、約20人の留学生が参加した。

さくらまつりでは、会場となった清水寺で満開となった桜を觀賞しつつ、初めての参拝や野だてを体験した後、住職から清水寺についての説明を受け、お土産に留学生それぞれの誕生年の干支つきの箸をいただいた。また、琴の演奏など多数の催し物を楽しみ、留学生同士や地元の方との親睦を深めた。

引き続き訪れたやしろ鴨川の郷では、社町長から社町の重要無形文化財や、旧跡についての説明があ

り、社町についての見聞を広める機会となった。



留学生が地元フレンドシップファミリーとの対面の会に参加

4月23日(金)、やしろ国際交流協会の留学生支援事業の一環として、県立嬉野台生涯教育センターで、本学留学生と地元フレンドシップファミリーとの対面の会が催された。

対面の会は、本学の留学生25人とともに、社町長ややしろ国際交流協会会長をはじめ多数のフレンドシップファミリーの方が出席された。

参加した留学生は、日本の「お父さん、お母さん」との対面にもすぐにうち解け、これからの交流など話題は尽きなかった。

このフレンドシップファミリー事業は、平成4年度から実施されており、これまでに延べ244人の留学生が、延べ179もの家庭から家族ぐるみの交流と支援をいただいております、相互の国際理解をさらに深めることとなっている。



- 訂正
- ・学報(第261号)
 - 11頁 平成16年度兵庫教育大学大学院学校教育研究科(修士課程)第2次入学者選抜状況
 - 1 専攻・コース別合格者数等の表中
 - (誤)教育方法コース 10人程度
 - (正)教育基礎コース 10人程度
 - 21頁 平成16年度公開講座の案内
 - 生涯を通して楽しむ英語と英米文化の欄中
 - (誤) 受講対象者: 小学校低学年児童をもつ保護者
 - 受講料: 8,200円(傷害保険料別途要)
 - (正) 受講対象者: 市民一般
 - 受講料: 7,200円
 - 27頁 ファカルティ・ディベロップメント推進委員会の表中
 - (誤)尾關 徹 講師(自然系教育講座)
 - (正)尾關 徹 教授(自然系教育講座)

- 主要日誌 -

月 日	事 項
4月1日(木)	役員会(第1回,第2回) 教育研究評議会(第1回,第2回) 学生寄宿舍入居手続
4月2日(金)	平成16年度兵庫教育大学新任職員オリエンテーション 学生委員会(第1回) 学生委員会・新入生クラス担当教員合同会議
4月5日(月)	教育研究評議会(第3回) 教授会(第1回) 研究科委員会(第1回) 学生寄宿舍・国際交流会館入居説明会 学生定期健康診断(7・8日) 春期休業(大学院(修士・博士),学部)終了
4月6日(火)	大学院学校教育研究科入学式 学校教育学部入学式 大学院(修士)新入生オリエンテーション(~8日) 学部新入生オリエンテーション(~8日)

4月7日(水)	後援会総会 附属図書館夜間開館開始(~7/29) 経営協議会(第1回) 役員会(第3回) 大学院新入生(夜間クラス)オリエンテーション(~8日) 学部クラスミーティング
4月8日(木)	神戸市スクールサポーター説明会
4月9日(金)	附属小学校,中学校始業式 附属小学校,中学校入学式 授業開始(学部・大学院(修士)) 附属幼稚園始業式
4月10日(土)	新入生歓迎会(修士課程)
4月12日(月)	第1回教員採用試験対策模擬試験 附属幼稚園入園式
4月13日(火)	授業開始(大学院(博士2,3年次)) 図書館利用説明会(図書館ツアー)(~16日)
4月14日(水)	大学院連合学校教育学研究科入学式 連合学校教育学研究科委員会(第1回) 連合大学院新入生オリエンテーション
4月15日(木)	学長選考会議(第1回) 授業開始(大学院(博士1年次)) 教職講座
4月16日(金)	学部新入生合宿研修(16日まで) 一般教養・教科専門セミナー
4月19日(月)	新入生歓迎会(学部)
4月20日(火)	附属中学校修学旅行(~22日) 就職委員会(第1回) 学生寄宿舍棟長会
4月21日(水)	役員会(第4回) 教務委員会(第1回) 基本戦略委員会(第1回) 教職講座
4月22日(木)	F D推進委員会(第1回) 就職相談室運営会議 一般教養・教科専門セミナー
4月23日(金)	学務・入試企画委員会(第1回) 大阪府教員採用試験説明会
4月26日(月)	同和・人権委員会(第1回)
4月27日(火)	附属図書館運営委員会(第1回) 附属学校運営委員会(第1回) 国際交流委員会(第1回)
4月28日(水)	安全衛生委員会 予算・決算委員会(第1回) 教職講座 一般教養・教科専門セミナー

編集発行 兵庫教育大学総務部庶務課
〒673-1494 兵庫県加東郡社町下久米942-1
電話 代表(0795)44-1101
<http://www.hyogo-u.ac.jp/>